

細倉を記録する

寺崎英子の

遺したフィルム展

そこにあったのは

鉾山の町、暮らした人々。

その光景は、私たちの日々にもつながっている。



2023年

10月31日〔火〕から12月28日〔木〕 9〜22時

入場無料 休館日 11月30日〔木〕

会場 せんだいメディアアテーク7階

ラウンジ、スタジオa

宮城県北西部、奥羽山脈の山麓の町鶯沢に

細倉鉾山という、鉛や亜鉛を産出した

日本で有数の鉾山がありました。

1941年、旧満州に生まれた寺崎英子は、

家族とともに細倉に移り住み、

家業の売店を生業にしました。

鉾山の閉山が発表されると

寺崎はカメラを手にし、記録を始めます。

閉山までは町や人々、子どもたちや

そこで飼われていた動物などに精神的に眼を向け、

閉山後は消えていく人々の生活、そしてその場所が

草むらとなって埋もれていく過程を丹念に撮影し、

約1万1千カットのネガを残しました。

本展では、写真をプリントすることなく

2016年、75歳で亡くなった寺崎英子の

ネガを元に刊行した同タイトルの写真集を中心に、

未発表作品のほか、撮影ノート、手紙、

俳句や短歌も合わせて紹介します。

主催 寺崎英子写真集刊行委員会 せんだいメディアアテーク
助成 一般財団法人 地域創造